

小学校図画工作科における〔共通事項〕の現状と課題 —図画工作科教科書からの分析—

久保村 里正*

The Current Situation and Problems of “Common Matters” in Elementary School Arts Education : Analysis from Art Education Textbooks

Risei KUBOMURA

要旨 〔共通事項〕とは、平成20年の学習指導要領の改訂で図画工作科に、A.表現、B.鑑賞と並列で、新しく設けられた項目で、その内容は色・形・イメージの教育である。この色・形・イメージの教育は、1919年ドイツ・ヴァイマルに作られた美術の専門学校バウハウスにおける予備課程（後の基礎課程）で行われていた構成教育（基礎造形）に類似しているが、この構成教育は高等教育における専門基礎に相当しているため、美術の専門性の高い内容となっている。過去、日本の学校教育でも昭和43年の学習指導要領において、学校教育に基礎造形を取り入れる試みがなされたが、教育内容の高度化が進みすぎたことによって、その試みは失敗している。その事からも学校教育における美術教育では、専門性が高くなるように注意をしなければならない。そこで本研究では教科書における〔共通事項〕の扱われ方を分析することによって、〔共通事項〕の現状と課題を明らかにし、〔共通事項〕の教育法を開発する上で必要な基礎資料の作成を行った。教科書を調査・分析した結果、〔共通事項〕のみ独立で扱っている題材はなく、〔共通事項〕との関連性が高い題材も少なかった。そして〔共通事項〕との関連性が高い題材は鑑賞題材の割合が高く、教科書における〔共通事項〕と鑑賞題材との親和性が明らかとなった。また全ての題材を通して〔共通事項〕の扱い方を分析してみると、造形遊び、絵に表す、立体に表す、工作に表す、鑑賞の各分野においても、コラムなどの小さな扱いになっており、具体的な指導を示す箇所はなかった。またコラムでの扱いも事後鑑賞における視点を述べているだけであり、表現活動との関係性が希薄であった。以上のことから、教科書における〔共通事項〕の扱いは具体性に欠ける内容であると共に、鑑賞に偏重したものだといえる。これは表現活動が中心となっている図画工作科のカリキュラムからすると問題であり、表現活動と〔共通事項〕との関連性を教材の中で具体的に示す必要がある。

キーワード：図画工作科 〔共通事項〕 教科書 基礎造形

はじめに

本研究で取り上げている〔共通事項〕とは、平成20年の学習指導要領の改定によって、図画工作科および美術科に設けられた項目である。この〔共通事項〕は、「色・形・イメージ」といった、従来までの図画工作科・美術科の範疇であった教

育を項目化したものだが、〔共通事項〕に含まれる内容の高度化・専門化を企図したものではない。

しかし〔共通事項〕で扱われる基礎造形の内容は、従来の〔A表現〕と〔B鑑賞〕の領域から別の項目としたことを考えれば十分に専門的であり、小・中・高等学校の教員にとって、それを簡単にわかりやすく指導するということは、非常に難しいことだと言える。また〔共通事項〕は、現行の指導案から、新規に設けられた事もあり、そ

*くほむら りせい 文教大学教育学部学校教育課程美術専修

の指導方法（以下、標準的指導法とする）が確立されていないため、教育現場においても試行錯誤が続けられている。

そこで小論では、〔共通事項〕を構造的にとらえることによって、小学校図画工作科における〔共通事項〕の現状と課題を明らかにし、〔共通事項〕の標準的指導法を確立するための基礎資料としての活用を企図する。

I 先行研究

前述のように〔共通事項〕の内容は、色・形・イメージといった、基礎造形教育の内容が主となっている。歴史的に構成と呼ばれていた基礎造形に関しては、多くの先行研究がなされており、高橋正人 (Masato TAKAHASHI, 1912-2000)¹⁾や、真鍋一男 (Kazuo MANABE, 1923-1987)²⁾、朝倉直巳 (Naomi ASAKURA, 1929-2003)³⁾、高山正喜久 (Masagiku TAKAYAMA, 1918-)⁴⁾、三井秀樹 (Hideki MITSU, 1942-)⁵⁾、久保村里正 (Risei KUBOMURA, 1969-)⁶⁾等、教育体系を構造的に示した研究が多くある。

一方の〔共通事項〕に関しては、平成20年の学習指導要領の改定によって新たに設けられた項目であるため、〔共通事項〕を構造的にとらえて教育体系を考察するような研究は少なく、波多野達二による「図画工作科における素材・対象との対話とイメージ形成との関係」⁷⁾、福田隆眞らによる「美術教育における「共通事項」の実践的研究」⁸⁾、青木善治による「考える力、表現する力、かかわり合う力を育て、自己肯定感を育む図画工作」⁹⁾など、実践的、臨床的な研究が中心となっている。

そこで小論では、〔共通事項〕を構造的にとらえるために、学習指導要領および現在使用されている図画工作科の教科書から、その取り扱われ方から、現状の分析を試み、〔共通事項〕の現状と課題を明らかにする。

II 学習指導要領における〔共通事項〕

昭和22年に最初の『学習指導要領図画工作科編（試案）昭和22年度』が作られ、昭和33年の学習指導要領から「文部省告示」という法的拘束力を持ったことにより、学習指導要領は教育課程の基準となった。この33年度版から学習指導要領はおおよそ10年を目安に改訂が行われるようになり、現在の平成20年の学習指導要領まで、計8つの学習指導要領が作られてきた。

この学習指導要領の改訂については、社会の状況や課題を受けた中央教育審議会の答申を元に行われるため、その時代の社会的な要請を強く反映したものとなっているが、毎回の改訂において大きく変わるのではなく、継続性を考慮しながら変わっている。しかしながら、これまでの学習指導要領の改訂の中でも大きな教育内容の変更が幾度かあり、〔共通事項〕が設けられた、現行の学習指導要領が始まった平成20年における改訂も、その中の一つだと言える。（表.1）

年	学習指導要領	教育	出来事	
1919年		皇国教育	パウハウス設立	
1933年			パウハウス閉校	
1945年			終戦	
1947年	昭和22年版	教育の民主化	旧教育基本法施行	戦後復興期
1950年			朝鮮戦争	
1951年	昭和26年版	教育の民主化	ワルター・グロピウス来日	高度経済成長
1953年			造形教育センター設立	
1954年			スプートニク・ショック	
1955年				
1957年				
1958年	昭和33年版	系統学習		
1968年	昭和43年版	教育内容の現代化	第4次中東戦争	
1973年				
1977年	昭和52年版	ゆとり教育への転換		バブル景気
1986年				
1989年	平成元年版	新学力観	第2土曜休業	失われた10年
1991年			第2第4土曜休業	
1992年				
1998年	平成10年版	生きる力	PISA第1回	失われた20年
2000年			完全週休二日制	
2002年			PISA第2回	
2006年			PISA第3回・教育基本法施行	
2008年	平成20年版	脱ゆとり	リーマンショック	
2009年			PISA第4回	
2012年			PISA第5回	

表.1 学習指導要領の変遷

1 教科内容の精選と充実

小学校図画工作科の教科構造は、昭和43年の学習指導要領の改訂による教育内容の現代化に伴い、「A 絵画」「B 鑑賞」「C デザイン」「D 工作」「E 鑑賞」の5領域に分けられ、指導内容の専門化・高度化が図られた。しかし続く、昭和52年の学習指導要領の改訂では、「A 絵画」「B 鑑賞」「C デザイン」「D 工作」「E 鑑賞」の領域が、「A 表現」と「B 鑑賞」の2領域に統合・整理され、指導内容の精選が行われた¹⁰⁾。そして、その流れを汲んだ平成元年、平成10年の学習指導要領改訂においても、「A 表現」と「B 鑑賞」の2領域の教科構造は引き継がれ、週休二日制の実施の影響もあり、更なる教科内容の精選が進められた。この精選の方法・内容に関しては、現在の社会状況を反映したものであり、必要な内容を残していったものではあるが、時間削減という現実的な問題に対しては、結果的に内容の統合や削減という方法をとらざるを得なかった。

そして現行の2008年(平成20年)の指導要領では、「A 表現」と「B 鑑賞」の2領域に対して、新たな〔共通事項〕という項目が設けられ、教科内容として取り入れられることになった。これは、PISAの調査による学力低下が指摘されるようになったことによるものであるが、結果的には、その原因をゆとり教育に求めることとなり、改訂の方針が脱ゆとりへと大きく変更されることとなった。この様な方針の変更は美術教育も同様であり、〔共通事項〕という基礎を設けるなどの教科構造に見直しを図られ、従来の方針と変わり、やや専門性の高い充実化した内容となった。

2 学習指導要領における内容としての〔共通事項〕

〔共通事項〕は、平成20年の改定によって初めて図画工作科および美術科に設けられた項目である。現在の学習指導要領では小学校の6学年を、低学年の〔第1学年及び第2学年〕、中学年の〔第3学年及び第4学年〕、高学年の〔第5学年及び

第6学年〕と分けており、それぞれに目標と内容を定めている。

1) 〔共通事項〕の内容

〔共通事項〕は『小学校学習指導要領』¹¹⁾において、各学年の内容の中で、A 表現、B 鑑賞の領域と並列に扱われており、A 表現、B 鑑賞に引き続き、以下のように書かれている。

小学校

〔第1学年及び第2学年〕

〔共通事項〕

(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。

イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。¹²⁾

〔第3学年及び第4学年〕

〔共通事項〕

(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、組み合わせなどの感じをとらえること。

イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。¹³⁾

〔第5学年及び第6学年〕

〔共通事項〕

(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。

イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。¹⁴⁾

上記の各学年の内容の中で述べられている〔共通事項〕は、各学年の中をアとイの2項目に分けており、アでは主に形や色の指導について、イではアで述べられた色と形からイメージ感じ取ることについて取り扱っている。各学年で共通して取

り扱われている内容は、色と形とイメージの3つであるが、〔第5学年及び第6学年〕では更に「動きや奥行き」が追加されている。

この共通して取り扱われている色・形については、基礎造形教育法で取り扱われている造形要素に含まれる内容であり、バウハウスに端を発する構成教育との類似性がみられる。このバウハウスにおける構成教育は、美術の専門学校であったバウハウスにおける予備課程（後の基礎課程）で行われていた教育内容であり、公立の美術の専門学校であるバウハウスへ入学する前の半年にわたる教育カリキュラムである。この基礎課程の教育カリキュラムは、バウハウスの専門的な授業を受講するために必要な基礎的な能力を養成することを企図したものであり、美術に関する専門性を有した、専門基礎に相当する教育カリキュラムだといえることができる。そういう意味では、色・形・イメージといった造形要素を扱っている〔共通事項〕は、バウハウスの基礎課程における構成教育と類似しており、基礎的な内容といっても専門性の強い教育内容であることが伺える。

この〔共通事項〕については、学習指導要領に新しく設けられた項目ではあるものの、内容的には既存の教育内容を再構成し選り抜きしたものであり、全てが新規の内容という訳ではない¹⁵⁾。しかし、この選り抜きによって新規項目化としたということは、現在の社会の状況や要請を反映し、今後の美術教育のあり方を示したものであり、平成20年の学習指導要領の改訂によって、従来までの「美術を通しての教育」から専門性を強めて、「美術の教育」へ一歩、踏み込んだと言えるだろう。

2) 〔共通事項〕の取り扱い

この様に〔共通事項〕は専門性を強めた内容であることが分かっており、その取り扱いに関してはいくつかの注意がなされている。これは昭和43年の改訂時に行われた教育内容の現代化によって、教育内容の専門化・高度化がすすみ、授業から落ちこぼれる児童・生徒が出てしまった反

省によるものである。

そこで『小学校学習指導要領』においては、指導計画の作成と内容の取り扱いで、専門化・高度化を抑制するために、以下のように記載されている

(1) 第2の各学年の内容の〔共通事項〕は表現および鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要なものであり、表現及び鑑賞の各活動において十分な指導が行われるよう工夫すること¹⁶⁾。

この様に〔共通事項〕の指導に関しては、「表現及び鑑賞の各活動において」行うように規定されているだけで、〔共通事項〕を独立して扱うことについては示しておらず、鑑賞に関して「児童や学校の実態に応じて、独立して行うようにすること。」¹⁷⁾と述べられているのは対称的である。

また『小学校学習指導要領解説図画工作編』においては、以下のように述べられている様に、〔共通事項〕の独立した運用に否定的な見解を述べている。

ただし、〔共通事項〕は、〔共通事項〕だけを題材にしたり、どの時間でも〔共通事項〕を教えるから授業を始めたりするなどの硬直的な指導を意図したものではない。¹⁸⁾

但し、学習指導要領解説で書かれている内容については、あくまでも「学習指導要領等の改善の趣旨及び内容について解説したもの」¹⁹⁾に過ぎなく、学習指導要領のような法的拘束力を持っているものではないため、厳守する性質のものではない。しかし学習指導要領の一つの解釈の仕方であることには違いなく、〔共通事項〕の独立した運用は、強い専門化・高度化を促す危険性があることを、気をつけなくてはならない。

Ⅲ 教科書における〔共通事項〕

Ⅱ章で述べたように〔共通事項〕とは、色と形とイメージといった、造形教育一般の基礎にあたる内容であるが、美術教育においては教科内容の

専門化と高度化を促す恐れがあることから注意が必要である。そこで本章では、色、形、イメージといった内容について、小学校図画工作科の教科書において、どの様に扱われているかを調査し、小学校における〔共通事項〕の現状を明らかにする

1 教科書について

教科書から教科の内容を調査する研究に関しては、山口喜雄による「戦後の美術科教科書における掲載作品の研究」²⁰⁾や、松井佑による「〔美術〕教科書のデザイン分野に関する研究」²¹⁾、「〔工芸〕教科書にみるデザイン教材の変遷(1)」²²⁾などの一連の研究があるが、〔共通事項〕を取り扱った研究はまだ無い。

教科書とは教科を教授する上で使用される主たる教材だが、現在、日本で用いられる教科書は一般図書とは異なり、全て文部科学省による検定を受けなくてはならない。検定は調査を含め使用開始まで3年の期間を要するため、4年に1度検定が行われ、教科書が改訂されている。

平成20年の学習指導要領に適用した小学校の教科書は既に2回の検定、採択、使用開始が行われており、平成21年検定－平成22年採択－平成23年使用開始と、平成25年検定－平成26年採択－平成27年使用開始のスケジュールとなっている。

平成21年の検定では、東京書籍、開隆堂出版株式会社、日本文教出版の3社から、以下の教科書が発行されている。

① 東京書籍株式会社

- ・『あたらしいずこう 1・2 いいことかんがえた』²³⁾
- ・『新しい図工 3・4 いいこと考えた』²⁴⁾
- ・『新しい図工 5・6 いいこと考えた』²⁵⁾

② 開隆堂出版株式会社

- ・『ずがこうさく 1・2 上 わくわくするね』²⁶⁾
- ・『ずがこうさく 1・2 下 みんなおいでよ』²⁷⁾
- ・『図画工作 3・4 上 できたらいいな』²⁸⁾

- ・『図画工作 3・4 下 思いをこめて』²⁹⁾
- ・『図画工作 5・6 上 心をつないで』³⁰⁾
- ・『図画工作 5・6 下 ゆめを広げて』³¹⁾

③ 日本文教出版株式会社

- ・『ずがこうさく 1・2 上 かんじたことを』³²⁾
- ・『ずがこうさく 1・2 上 おもったことを』³³⁾
- ・『図画工作 3・4 上 よさを見つけて』³⁴⁾
- ・『図画工作 3・4 下 ちがいをみとめて』³⁵⁾
- ・『図画工作 5・6 上 心を通わせて』³⁶⁾
- ・『図画工作 5・6 下 伝え合って』³⁷⁾

平成25年の検定では、東京書籍株式会社が図画工作科の教科書発行から撤退したことにより、開隆堂出版株式会社、日本文教出版の2社から、以下の教科書が発行されている。

① 開隆堂出版株式会社

- ・『ずがこうさく 1・2 上 わくわくするね』³⁸⁾
- ・『ずがこうさく 1・2 下 みんなおいでよ』³⁹⁾
- ・『図画工作 3・4 上 できたらいいな』⁴⁰⁾
- ・『図画工作 3・4 下 思いをこめて』⁴¹⁾
- ・『図画工作 5・6 上 心をつないで』⁴²⁾
- ・『図画工作 5・6 下 ゆめを広げて』⁴³⁾

② 日本文教出版株式会社

- ・『たのしいな おもしろいな ずがこうさく 1・2 上』⁴⁴⁾
- ・『たのしいな おもしろいな ずがこうさく 1・2 下』⁴⁵⁾
- ・『見つけたよ ためしたよ 図画工作 3・4 上』⁴⁶⁾
- ・『見つけたよ ためしたよ 図画工作 3・4 下』⁴⁷⁾
- ・『見つめて 広げて 図画工作 5・6 上』⁴⁸⁾
- ・『見つめて 広げて 図画工作 5・6 下』⁴⁹⁾

2 調査方法・結果

前述のように、平成20年の学習指導要領に適合した教科書は開隆堂出版株式会社と日本文教出版株式会社の2社から発行されている。そこで本項では開隆堂出版から発行されている6冊の教科書と、日本文教出版から発行されている6冊の教科書について分析を行う。

調査方法は題材全てを、造形遊び、絵に表す、立体に表す、工作に表す、鑑賞の5分野と、その他に分類し、その数を括弧内で示し、それぞれの題材に対する〔共通事項〕との関連性を分析した。〔共通事項〕との関連性に関しては、その程度によって、題材そのものに〔共通事項〕の内容が強く含まれているもの、コラム等で〔共通事項〕への言及があるもの、全くないものの3段階とし、それぞれA、B、Cとし、その総数を比較した。

1) 開隆堂出版

開隆堂の教科書では各題材における分野を、造形遊びを「材料や場所、環きょうをもとにした活動」など、絵に表すを「絵」、立体に表すを「立体」、工作に表すを「工作」、鑑賞を「かんしょう」としている。また、これらの題材以外に、「小さな美術館」、「ゆめをかたちに」、「みんなのギャラリー」、「パレットコーナー」、「工具箱」などの各コラムがあり、それぞれ各分野に分けられているが、日本文教出版にも似たようなコラムがあるものの各分野には分けられていないため、両社ともコラムは、その他の扱いとした。

①『ずがこうさく1・2上 わくわくするね』

- a) 造形遊び (4) (鑑賞との重複1を含む)
A : 3, B : 1, C : 0
- b) 絵に表す (9)
A : 0, B : 7, C : 2
- c) 立体に表す (1)
A : 0, B : 1, C : 0
- d) 工作に表す (8) (鑑賞との重複2を含む)
A : 1, B : 4, C : 2
- e) 鑑賞 (3) (重複3を含む)
A : 0, B : 3, C : 0
- f) その他 (5)
A : 0, B : 1, C : 4
- g) 小計
A : 4, B : 16, C : 8

②『ずがこうさく1・2下 みんなおいでよ』

- a) 造形遊び (4)
A : 1, B : 1, C : 2
- b) 絵に表す (9) (鑑賞との重複1を含む)
A : 3, B : 5, C : 1
- c) 立体に表す (2)
A : 0, B : 2, C : 0
- d) 工作に表す (7) (鑑賞との重複1を含む)
A : 0, B : 5, C : 2
- e) 鑑賞 (2) (重複2を含む)
A : 0, B : 1, C : 1
- f) その他 (5)
A : 0, B : 4, C : 1
- g) 小計
A : 4, B : 18, C : 7

③『図画工作3・4上 できたらいいな』

- a) 造形遊び (3)
A : 0, B : 1, C : 2
- b) 絵に表す (8)
A : 2, B : 4, C : 2
- c) 立体に表す (2)
A : 0, B : 1, C : 1
- d) 工作に表す (8)
A : 2, B : 4, C : 2
- e) 鑑賞 (1)
A : 0, B : 0, C : 1
- f) その他 (5)
A : 1, B : 2, C : 2
- g) 小計
A : 5, B : 12, C : 10

④『図画工作3・4下 思いをこめて』

- a) 造形遊び (2)
A : 0, B : 0, C : 2
- b) 絵に表す (7)
A : 2, B : 5, C : 0
- c) 立体に表す (2)
A : 0, B : 1, C : 1

d) 工作に表す (5)

A : 1, B : 2, C : 2

e) 鑑賞 (1)

A : 1, B : 0, C : 0

f) その他 (5)

A : 2, B : 2, C : 1

g) 小計

A : 6, B : 10, C : 6

⑤『図画工作5・6上 心をつないで』

a) 造形遊び (2)

A : 0, B : 0, C : 2

b) 絵に表す (6)

A : 2, B : 3, C : 1

c) 立体に表す (2)

A : 1, B : 0, C : 1

d) 工作に表す (7)

A : 1, B : 3, C : 3

e) 鑑賞 (1)

A : 0, B : 1, C : 1

f) その他 (5)

A : 2, B : 1, C : 2

g) 小計

A : 6, B : 8, C : 10

⑥『図画工作5・6下 ゆめを広げて』

a) 造形遊び (2)

A : 0, B : 2, C : 0

b) 絵に表す (7)

A : 3, B : 2, C : 1

c) 立体に表す (2)

A : 0, B : 1, C : 1

d) 工作に表す (6)

A : 0, B : 4, C : 2

e) 鑑賞 (1)

A : 0, B : 1, C : 0

f) その他 (5)

A : 1, B : 1, C : 3

g) 小計

A : 1, B : 11, C : 7

⑦ 全学年合計

a) 造形遊び (2)

A : 4, B : 5, C : 8

b) 絵に表す (7)

A : 9, B : 26, C : 7

c) 立体に表す (2)

A : 1, B : 6, C : 4

d) 工作に表す (6)

A : 5, B : 22, C : 13

e) 鑑賞 (1)

A : 1, B : 6, C : 3

f) その他 (5)

A : 6, B : 11, C : 13

g) 総計

A : 19, B : 75, C : 48

2) 日本文教出版

日本文教出版の教科書では各題材における分野を、造形遊びを「ぞう形遊びをする活動」など、絵に表すを「絵に表す活動」、立体に表すを「立体に表す活動」、工作に表すを「工作に表す活動」、鑑賞を「かん賞する活動」としている。また、これらの題材以外に、「教科書美術館」、「図画工作の広がり」、「ぞうけいのもり」、「使ってみよう材料と用具」などの各コラムがあり、それぞれ各分野に分けられているが、前述のようにコラムは、その他の扱いとした。

①『たのしいな おもしろいな ずがこうさく1・2上』

a) 造形遊び (4)

A : 1, B : 2, C : 1

b) 絵に表す (7)

A : 2, B : 2, C : 3

c) 立体に表す (4)

A : 0, B : 4, C : 0

d) 工作に表す (6)

A : 0, B : 3, C : 3

- e) 鑑賞 (1)
A : 1, B : 0, C : 0
- f) その他 (3)
A : 0, B : 0, C : 3
- g) 小計
A : 4, B : 11, C : 10
- ②『たのしいな おもしろいな ずがこうさく1・2下』
- a) 造形遊び (4)
A : 0, B : 4, C : 0
- b) 絵に表す (7)
A : 0, B : 5, C : 2
- c) 立体に表す (4)
A : 0, B : 3, C : 1
- d) 工作に表す (5)
A : 0, B : 1, C : 4
- e) 鑑賞 (2)
A : 1, B : 0, C : 1
- f) その他 (3)
A : 1, B : 0, C : 2
- g) 小計
A : 2, B : 13, C : 10
- ③『見つけたよ ためしたよ 図画工作3・4上』
- a) 造形遊び (4)
A : 0, B : 3, C : 1
- b) 絵に表す (7)
A : 1, B : 3, C : 3
- c) 立体に表す (4)
A : 1, B : 3, C : 0
- d) 工作に表す (5)
A : 0, B : 4, C : 1
- e) 鑑賞 (1)
A : 0, B : 0, C : 1
- f) その他 (4)
A : 1, B : 1, C : 2
- g) 小計
A : 3, B : 14, C : 8
- ④『見つけたよ ためしたよ 図画工作3・4下』
- a) 造形遊び (4)
A : 0, B : 3, C : 1
- b) 絵に表す (6)
A : 0, B : 2, C : 3
- c) 立体に表す (4)
A : 0, B : 1, C : 3
- d) 工作に表す (5)
A : 1, B : 1, C : 3
- e) 鑑賞 (1)
A : 0, B : 0, C : 0
- f) その他 (4)
A : 0, B : 1, C : 3
- g) 小計
A : 1, B : 8, C : 13
- ⑤『見つめて 広げて 図画工作5・6上』
- a) 造形遊び (2)
A : 0, B : 2, C : 0
- b) 絵に表す (6)
A : 1, B : 1, C : 4
- c) 立体に表す (4)
A : 2, B : 1, C : 1
- d) 工作に表す (4)
A : 1, B : 1, C : 2
- e) 鑑賞 (2)
A : 0, B : 2, C : 0
- f) その他 (6)
A : 1, B : 1, C : 4
- g) 小計
A : 5, B : 8, C : 11
- ⑥『見つめて 広げて 図画工作5・6下』
- a) 造形遊び (2)
A : 1, B : 0, C : 1
- b) 絵に表す (6)
A : 0, B : 1, C : 5
- c) 立体に表す (4)
A : 1, B : 2, C : 1

- d) 工作に表す (4)
A : 0, B : 2, C : 2
- e) 鑑賞 (2)
A : 2, B : 0, C : 0
- f) その他 (6)
A : 0, B : 0, C : 6
- g) 小計
A : 4, B : 5, C : 15

⑦ 全学年合計

- a) 造形遊び (2)
A : 2, B : 14, C : 4
- b) 絵に表す (7)
A : 4, B : 14, C : 20
- c) 立体に表す (2)
A : 4, B : 14, C : 6
- d) 工作に表す (6)
A : 2, B : 12, C : 15
- e) 鑑賞 (1)
A : 4, B : 2, C : 2
- f) その他 (5)
A : 3, B : 3, C : 20
- g) 総計
A : 19, B : 59, C : 67

3 考察

教科書を分析した結果、開隆堂出版と日本文教出版のいずれの教科書にしても〔共通事項〕が独立して扱われている単元はなく、関連性がAとなった題材も少なかった。また関連性がAとなった題材においても、その内容は「鑑賞」もしくは「その他」に分類されているものの実質的には鑑賞に含まれる題材の割合が多く、〔共通事項〕が、表現と鑑賞の両方にまたがる内容と規定しているのにも関わらず、鑑賞教育への偏重が伺えた。

一方、関連性がBとなった題材は、最も数が多いものの、大半は本文と切り離された小さなコラムとして〔共通事項〕を扱っているのみであった。例えば開隆堂の場合は、各題材のページ内に

「ふりかえって、はなしあおう」というタイトルの囲み記事を設けて、そこで「色づくりや筆使いで、どこをくふうしましたか」⁵⁰⁾、「表したいものになるように、形をどのようにくふうしましたか。」⁵¹⁾などの問いかけを記載し、〔共通事項〕に関する指導を行っている。

また日本文教出版の場合は、開隆堂と比較すると、見出しに「学習のめあて」が設けられており、更に1行のみの小さいコラムが版面外下の余白に設けられている。コラムには「ぬりつぶした何もない画面から、形をさがすような感じがしたよ」⁵²⁾、「色や形をくふうしてつくったものは、何度でも遊びたくなるものになったよ」⁵³⁾などの制作後の感想が書かれており、〔共通事項〕に関する手がかりとなっている。

しかし、これらのコラムはいずれも〔共通事項〕の具体的な指導が乏しく、どの題材にでも全般的に言えるような内容だといえる。また制作前の指導というよりは、制作後（事後鑑賞）の感想という形式で〔共通事項〕を扱っているため、〔共通事項〕を踏まえて制作を行うといった、プロセスになっていないものがみうけられる。このようなことは、表現活動が中心となっている図画工作科のカリキュラムから考えてみると大きな問題であり、安易に〔共通事項〕が鑑賞教育へ偏重している状況が伺える。そういう意味では今後、〔共通事項〕と表現活動を具体的に関連づけた授業法の開発が必要だといえる。

おわりに

現在の図画工作科を取り巻く状況を鑑みると、過去の指導要領の改訂によって削減された授業時間数が、元に戻ることを期待するのは現実的ではないだろう。しかし図画工作科の持つ教育意義が、社会的な役割を終えたかといえそうではなく、図画工作科の持つ情動的な機能や創造的な機能において、より図画工作科の果たす役割は期待されている。

その様な状況を踏まえて上で、図画工作科は現

在確保されている時間数の中で、より情動的な機能や創造的な機能の教育効果を高める、より具体的な〔共通事項〕の指導方法を考えていかなくてはならないだろう。

本研究は科学研費 基盤研究 (C) (26381224) の助成を受けたものである。

註

- 1) 高橋正人, 『新版・基礎デザイン』, 岩崎美術社, 1984
- 2) 真鍋一男, 『ベーシックデザイン平面構成』, 美術出版社, 1965
- 3) 朝倉直巳, 『芸術・デザインの平面構成』, 六耀社, 1984
- 4) 高山正喜久, 『立体構成の基礎』, 美術出版社, 1965
- 5) 三井秀樹, 『新 構成学—21世紀の構成学と造形表現』, 六耀社, 2006
- 6) 久保村里正, 『造形要素の構造化に基づく基礎造形教育法に関する研究』, 名古屋大学大学院人間情報学研究科博士論文, 2008
- 7) 波多野達二, 「図画工作科における素材・対象との対話とイメージ形成との関係」, 『佛教大学教育学部学会紀要 14』, 佛教大学教育学部, p. 27-p.37, 2015
- 8) 福田隆眞, 福田哲郎, 西村優子, 「美術教育における「共通事項」の実践的研究」, 『山口大学教育学部・附属教育実践研究紀要 (10)』, 山口大学教育学部附属教育実践総合センター, p.35-p.46, 2011
- 9) 青木善治, 「考える力, 表現する力, かかわり合う力を育て, 自己肯定感を育む図画工作」, 『美術教育学 (31)』, 美術科教育学会, p.1-p.12, 2010
- 10) 文部省, 『小学校指導書図画工作編』, 日本文教出版株式会社, 1978, p.2
- 11) 文部科学省, 『小学校学習指導要領』, 東京書籍, 2008
- 12) 上掲書 11, p.84
- 13) 上掲書 11, p.85
- 14) 上掲書 11, p.86
- 15) 久保村里正, 「2008年における学習指導要領・図画工作科の改訂〔共通事項〕にみられる基礎的・基本的な知識・技能」, 『教育研究所紀要第18号』, 文教大学教育研究所, 2009, p.42

- 16) 上掲書 11, p.86
- 17) 上掲書 11, p.86
- 18) 文部科学省, 『小学校学習指導要領解説図画工作編』, 日本文教出版, 2008, p.20
- 19) 「学習指導要領 (解説) 等の位置付けについて」, 文部科学省, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/016/siryo/05063002/003.htm, 2015.10.28
- 20) 山口喜雄, 「戦後の美術科教科書における掲載作品の研究」, 『日本美術教育研究紀要 (33)』, 日本美術教育連合, 2000, p.31-p.38, 2000 1 1
- 21) 松井佑, 「「美術」教科書のデザイン分野に関する研究」, 『基礎造形 009』, 日本基礎造形学会, 2001, p.1-p.10
- 22) 松井佑, 「「工芸」教科書にみるデザイン教材の変遷 (1)」, 『基礎造形 010』, 日本基礎造形学会, 2002, p.37-p.42
- 23) 栗田真司・大道博敏・辻克巳・庖刀由利子, 『あたらしいぞう 1・2 いいことかんがえた』, 東京書籍, 2010
- 24) 栗田真司・大道博敏・辻克巳・庖刀由利子, 『新しい図工 3・4 いいこと考えた』, 東京書籍, 2010
- 25) 栗田真司・大道博敏・辻克巳・庖刀由利子, 『新しい図工 5・6 いいこと考えた』, 東京書籍, 2010
- 26) 日本造形教育研究会, 『ずがこうさく 1・2 上 わくわくするね』, 日本文教出版, 2010
- 27) 日本造形教育研究会, 『ずがこうさく 1・2 下 みんなおいでよ』, 日本文教出版, 2010
- 28) 日本造形教育研究会, 『図画工作 3・4 上 できたらいいな』, 日本文教出版, 2010
- 29) 日本造形教育研究会, 『図画工作 3・4 下 思いをこめて』, 日本文教出版, 2010
- 30) 日本造形教育研究会, 『図画工作 5・6 上 心をつないで』, 日本文教出版, 2010
- 31) 日本造形教育研究会, 『図画工作 5・6 下 ゆめを広げて』, 日本文教出版, 2010
- 32) 日本児童美術研究会, 『ずがこうさく 1・2 上 かんじたことを』, 日本文教出版, 2010
- 33) 日本児童美術研究会, 『ずがこうさく 1・2 上 おもったことを』, 日本文教出版, 2010
- 34) 日本児童美術研究会, 『図画工作 3・4 上 よさを見つけて』, 日本文教出版, 2010
- 35) 日本児童美術研究会, 『図画工作 3・4 下 ちがいをみとめて』, 日本文教出版, 2010
- 36) 日本児童美術研究会, 『図画工作 5・6 上 心を通わせて』, 日本文教出版, 2010
- 37) 日本児童美術研究会, 『図画工作 5・6 下 伝え合っ

- て』, 日本文教出版, 2010
- 38) 日本造形教育研究会, 『ずがこうさく1・2上 わくわくするね』, 開隆堂出版株式会社, 2014
 - 39) 日本造形教育研究会, 『ずがこうさく1・2下 みんなおいでよ』, 開隆堂出版, 2014
 - 40) 日本造形教育研究会, 『図画工作3・4上 できたらいいな』, 開隆堂出版, 2014
 - 41) 日本造形教育研究会, 『図画工作3・4下 思いをこめて』, 開隆堂出版, 2014
 - 42) 日本造形教育研究会, 『図画工作5・6上 心をつないで』, 開隆堂出版, 2014
 - 43) 日本造形教育研究会, 『図画工作5・6下 ゆめを広げて』, 開隆堂出版, 2014
 - 44) 日本児童美術研究会, 『たのしいな おもしろいな ずがこうさく1・2上』, 日本文教出版, 2014
 - 45) 日本児童美術研究会, 『たのしいな おもしろいな ずがこうさく1・2下』, 日本文教出版, 2014
 - 46) 日本児童美術研究会, 『見つけたよ ためしたよ 図画工作3・4上』, 日本文教出版, 2014
 - 47) 日本児童美術研究会, 『見つけたよ ためしたよ 図画工作3・4下』, 日本文教出版, 2014
 - 48) 日本児童美術研究会, 『見つめて 広げて 図画工作5・6上』, 日本文教出版, 2014
 - 49) 日本児童美術研究会, 『見つめて 広げて 図画工作5・6下』, 日本文教出版, 2014
 - 50) 上掲書 43, p.9
 - 51) 上掲書 43, p.13
 - 52) 上掲書 43, p.15
 - 53) 上掲書 43, p.27